

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

14時50分まで暫時休憩といたします。

〈午後2時42分 休憩〉

〈午後2時50分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、新型コロナウイルス感染症対策について、保育・教育行政についての2点について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、新型コロナウイルス感染症対策について。

(1) 医療関係者から新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの接種が始まりました。ワクチン接種をどのように進めていくお考えか。

実務を担う糸魚川市の計画と体制は、どのようになっているか。医師、看護師、接種後の一時待機の場所等、確保できたか。

(2) ワクチン頼みで感染対策がおろそかになれば、新型コロナウイルス感染症を抑え込むことはできません。無症状感染者を含めた検査の抜本的拡充、医療機関への減収補填、十分な補償等、感染対策の基本的取組を並行して、しっかり行うことが必要と考えます。どのように考えているか。

(3) 医療機関のみならず、高齢者施設を集団感染から守ることは、緊急の課題であります。介護や高齢者施設の優先接種を、県や国に働きかける必要があるのではないかと。

(4) コロナ禍で全国的に医療危機の状態が表面化し、医療従事者の離職もあります。地域医療体制の長期的安定を図るためにも、医療への国の財政支出を増やす必要があると思うが、どのように考えているか。

2、保育・教育行政について。

(1) 保育士を目指す人たちが少なくなっていると言われ、保育行政をめぐる環境には厳しいものがあると思いますが、当市の人材確保の現状は、どのようになっているか。

(2) 近年、保育職員の退職が多いのではないかと思います。職員が辞める原因と現状をどのように捉えているか。

(3) 少子化の中で、浦本保育園が休園となりますが、学校統合と同じように十分な話し合いを行った上で方向を決めるべきと思いますが、閉園を急いだ理由は何か。

(4) 近年、小学校の学級をまとめるのが一層大変になっているのではないかという声を聞きますが、その原因を作り出している一因に、子供の発達に沿った保育・教育になっていない結果ではないかということも考えられます。どのようにお考えか。

(5) 教育委員会の所管事務が多過ぎるのではないか。保育園の所属を福祉事務所に戻したらどうか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、ワクチン接種体制は、集団接種と個別接種を組み合わせた計画としており、人員及び会場の確保を進めております。

2 点目につきましては、ワクチン接種や基本的感染症対策を行うとともに、検査体制の確保や減収補填について、国・県に働きかけていきます。

3 点目につきましては、高齢者については優先接種の対象となっていることから、高齢者施設において円滑な接種ができるよう進めております。また、従事者については、高齢者と同時に接種できるように取り組んでおります。

4 点目につきましては、地域医療体制の安定を図るための財政支援について、引き続き、市長会等を通じて、国へ要望してまいります。

2 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長の答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

新保議員の 2 番目のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、保育士確保は厳しい状況にありますが、新潟県保育サポートセンターも活用し、保育士の雇用につなげてまいりたいと考えております。

2 点目につきましては、退職の理由はそれぞれ異なり、やむを得ないものと捉えております。

3 点目につきましては、令和 3 年度の入園申込み者が結果的にゼロになったことや今後の出生数の見込みから、閉園する方向で保護者や地区と協議し、その結果、休園としたものであります。

4 点目につきましては、近年、支援が必要な子供が増加傾向にありますが、めだか園と連携しながら子供の発達に沿った保育・教育をしております。

5 点目につきましては、ゼロ歳から 18 歳までの子ども一貫教育方針に基づき、子育て、教育に関する行政窓口を一本化し、対応しており、今後も継続してまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

糸魚川市のワクチン接種推進体制は、どのように構成されておりますか。糸魚川保健所とはどのような関係になるか。電話相談センターは、糸魚川保健所が受け持つのか。糸魚川保健所の役割はどうか。その辺についてお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川市のワクチンの接種体制は、集団接種と個別接種を組み合わせた計画としております。

糸魚川保健所との関わりでありますけども、直接ワクチン接種につきましては、私ども新潟県の本部と直接話をしております。

昨日も夕方6時からワクチンの会議をオンラインで開いておりますが、市内での参加者は、糸魚川市、糸魚川保健所、糸魚川医師会、糸魚川総合病院、この4つが加わる中で、ワクチンをどうするかということをやっております。

予約につきましては、糸魚川市で設置することにしておりまして、予約センターを設けて対応してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

医師、看護師の確保、接種後の一時待機の場所の確保は、できたということですね。

集団接種と個別接種ということですが、それぞれ何か所で、最高1日何人の接種が可能か、お聞かせください。

それと協力していただける医師、看護師数は、どのぐらいになるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

集団接種、個別接種共に、現在、糸魚川総合病院、医師会と調整中でありまして、おおむねの、あらかたの方向は決まっておりますけども、まだ詳細、詰め切れてない部分もありますので、それについては今調整しておりますので、数等については申し上げられません。

では、必要な医師、看護師は、じゃあどのくらいかというのも、それも含めて調整をしております。

す。

それから、調整はしておりますけども、医師会、糸魚川総合病院の先生方全てが大変前向きに今取り組んでおりますので、糸魚川市としては医療資源を最大限に使って、まさに市と医師会、糸魚川総合病院が、チーム糸魚川で取り組むという体制で、今準備を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

今は医療関係者、全国的には医療関係者の接種が行われているわけですよ。きちんとそういうふうになるかどうか分かりませんが、4月12日からは、高齢者向けの接種が始まるというふうになってるわけですね。糸魚川市は、体制はできるだろうということなんだけど、今、ほとんどの先生方に協力してもらえるということになれば、大体どのぐらい1日にちゅうか、1回ですよ、通常の業務が終わってからなのか、途中でどっか入れるちゅうことになると思うんで、およそそれは分かっているんじゃないかと思うんですが、その辺もまだはっきりしてないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

集団接種につきましては、二つのレーンを使って、同時に二つやっぺいこうと。1日、午前、午後両方やって、今目標としているところは200人はできる体制を組めるのではないかなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

先行接種となる医療関係者向けの接種は、全国的には4月12日の高齢者向けの接種が始まる前までに3月中になるのか4月までずれ込むのか分かりませんが。糸魚川市の場合はどういうふうになりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

昨日の答弁では、3月中旬からといった話をさせていただきましたが、昨日夕方の会議を踏まえると、3月中の接種はちょっと難しい状況かなというのが、県からの情報でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そうすると医療関係者向けの接種が終わらないうちに高齢者の接種が始まるということはないわけですから、当然、高齢者の接種も後にずれていくと。そういうことになるわけですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

当初は、医療関係者を先にやって、高齢者という状況でありましたが、ワクチンの供給が十分でないという状況の中で、医療従事者と高齢者が並行して行うといった形に今なろうかと、そういうような状況であります。

ただ、これはあくまでも現時点での状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そうすると病院なり医師会の先生方にしても、いつから来るか分からないというんで大変体制を組むのも困ると思うんですが、先ほど4月12日からの高齢者向け先行限定接種というのは、一定の数、スタート時点で本体の接種は4月26日からの週にというふうに言われてましたけども、それも全体として繰り下がっていくということですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

現時点ということではありますが、4月26日の週にワクチンが来て、新潟県内に配付される、届けられるワクチン数は、約2万回分です。人数にしますと1万人ということになりまして、それを分けて、行っていくという形になります。新潟県の人口は200万を超えてる中で、それだけの数しか当面は届かないという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

政府の言ってる、国のほうで言ってるのは、EUの了承が前提ということではありますが、ファイザー社との契約で6月末までに高齢者全員にワクチン2回接種分を確保できたというふうに報じられております。糸魚川市は、65歳以上の人口が1万6,000人だと思っておりますが、1万6,000人分のワクチンが来るというのは、この6月末までに来るちゅうことが、今の時点であ

る程度予想されることなんですか。恐らくそうなるだろうということは考えられるんですか。それとも分からないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

国会での議論、あるいはマスコミでの議論の中で、今、新保議員がおっしゃった数字が出てきておりますが、厚生労働省から正式な文書としては来ておりませんので、現時点では分からないと。今までの例を見ますと、どちらかという跟前倒しじゃなくて、後ろ倒しで取組が行われてるという状況であります。

しかしながら、市としては、いつ来てもできる体制をしっかりと整えて、ワクチン接種に臨んでいきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そういう点で、先ほど最初に聞いた2か所というんですか、例えば糸魚川総合病院であれば、どこ使うのか分かりませんが、広いところは前は講堂がありましたけど、そういうところを二つに仕切ってやるとか、もう一か所どっかに糸魚川総合病院と、もう一か所どっかに設けるとか、参加していただける先生方は、この医院は何曜日なら大丈夫だとか、週何回大丈夫だとか、もう少し詰められるように、全体として遅くなったとしてもいつでも対応できるようにぜひやっていただきたいと思うんですが、その点、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、新保議員おっしゃるように接種される方が、建物の中に入って、どういう動線で、どうやって流れていくか、そのためにはどういう人員配置をして、部屋をどうやって使うか、またパーティションをどうするかということにつきましては、もう既に調整が済んでおります。さらにその細部を今詰めてるという段階でありますので、おっしゃられるように、ともかくワクチンが来たら、しっかり速やかに接種できるように取り組んでまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

国のほうでは3社、ファイザー、モデルナ、アストラゼネカの3社で、1億5,700万人分の

供給契約をしてあるんだということではありますが、何万人分というか、その半分に、2回接種ならなると思うんですが、時期的にはちょっと分かりませんが、糸魚川市としてはしっかりやっていっていただきたいと思います。

ワクチン頼みで、今答弁がございましたようにワクチンが、いつ、どれだけ来るかというの、まだはっきり分かっていない、そういう段階では、その前段として、やはり新型コロナウイルスを抑え込む、こういう対策も同時にやっていかなきゃならないと思うんですよね。糸魚川市の場合は、4人が出た後に、しばらくまだ今は出てません。

しかし、上越市は集団感染といいますか、そういうものが出て、増えてます。どうしても都市部、今、感染している地域へ行ったり、来たりということがあれば、これはどうしても感染というのは糸魚川市は例外にはならない。そういうことも当然考えられるので、こういう対策もきちんとやっていかんきゃならんというふうに思います。これは市として考える対策と、それぞれ市民が日常生活の中で考えなければいけないことなわけですが、その辺のところをいま一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

新保議員おっしゃられるとおり、まさに行政、そして市民がそれぞれ感染予防対策をしっかり行っていくことが大切だと思います。そのことが結果的にいうと、糸魚川市は比較的感染者数が少なく抑えられているのかなと思っております。そのためには、とにかく手洗い、マスク、消毒、換気、3密の回避といった基本的事項を守らなければならないと思いますし、今後も市民に対して私どもそういう働きをし続けてまいりたいと思いますし、市民の皆さんからもぜひそういうことにつきまして、注意を払いながら新しい生活様式で過ごしていただきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

糸魚川市の場合は4人だけということですが、抑えられているという状況ですが、その検査の点については、どういう考えを持っておられますか。糸魚川市は出ていないから、今のところ特にそういう、表に出ていないそういう感染者、無症状の感染者を含めた検査というのは、今はないからしないということなんでしょうが、どういうお考えか聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

コロナウイルス感染の可能性のある方については、何らかの症状があつて受診をされるわけですが、それぞれの開業医においてPCR検査、もしくは抗原検査が行われております。

また、感染者が発生した場合に濃厚接触者でありますとか、その他の接触者についても全て把握

をし、その上で検査を行っておりますので、今の検査体制については、十分でないかなというふう  
に認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

医療の責任というのは、国・県にあると思うんですが、今後の取組で、県立病院、県からの力を  
借りるということではなくても糸魚川市で大丈夫だという考えなのか、それとも県と連携しながら、  
必要に応じては社会的検査も行うこともある。いろんな可能性あるというのを想定しながら、連携  
を強めているのか、その辺のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

検査ということでお答えさせていただきたいと思いますが、検査については県の、糸魚川ですと  
保健所が中心となって検査を行っておりますので、そういう意味では、県との連携というのはでき  
ておるといふふうに考えております。

糸魚川市でそういう疑いの方が発生した場合には、保健所が中心となって濃厚接触者なりの、ま  
たあるいはその他の接触者なりの追跡の調査を行っておるといふことであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

高齢者施設で集団感染が出ているところは、全国的に見れば、あちこちにあると思うんですが、  
県内でも、それと似たような形で集団感染が出ているところがあると思います。今回のワクチン接  
種の際は、個人に接種券を届けると。券を届けるということのようようでありますけども、介護  
施設や高齢者施設のそういう施設の場合、どういう、何ていうんでしょうか、そこの職員が、全員  
希望してると。高齢者も全員なり希望してると。そういう場合は、もう同時にその施設をやれると  
いうことになってるといふことで考えてよろしいんですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えをいたします。

高齢者施設へ入所されている方につきましては、なかなかその施設を出て、病院まで行って接  
種というのはなかなか難しい状況であります。そういった場合には、本人または家族からの接種の  
同意を得た場合には、その施設内におきまして接種ができるような形で、今準備を進めていると  
ころであります。



ただ、例えば認知症のグループホームのような形で、施設外のかかりつけ医がいらっしゃる場合の方、行ける方につきましては、それぞれのかかりつけ医で接種をすることも可能でもあります。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

さっき言った中に職員の点は、その点はどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

失礼いたしました。

職員、施設での従事者につきましては、入所施設に従事している職員の方を対象としまして、国のほうでも、今ほど議員おっしゃられます施設内でのクラスター対策の一層の推進のために、市町村または施設等の双方の体制が整った場合には、入所者と同じタイミングで従事者の接種をすることも差し支えないといった形で、国のほうでも示しております。

現在、当市におきましても、従事者につきましても入所者との同時接種ということで、事務を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ぜひそういうことで、集団感染ということが出ることのないように取り組んでいただきたいと思います。

地域医療体制の関係で、3年ほど前になると思うんですが、市民厚生常任委員会で糸魚川総合病院を訪問した際に、経常収支についての説明を受けました。年々経営が苦しくなっている状況の中で、改善策を図り、取り組んでいるということがよく分かったわけではありますが、病院経営そのものは、当時よりも苦しくなっているのではないかと思います。それで、新型コロナウイルス感染症の影響で、一層厳しくなっているこの経営状況、これは全国的に病院なり医療機関、同じような状況にあるんでないかと思うんですよね。やはり基本的なところの国の財政支援、こういうものを医療のほうに、もっと充てていかないと、日本の医療というものがますます大変になっていくんじゃないかなというふうに思います。ぜひこういう点、国のほう、あるいは県、働きかけをお願いしたいと思います。再度、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

病院の経営につきましては、今ほど新保議員がお話しになったように、このコロナ禍で受診控えというのがあって、大変厳しい状況だということは報道でも伝えられておりますし、そういうことだというふうに認識をしております。

市も、当市におけるそれに対する活動としましては、地域医療連携推進協議会ということで6市で、厚生連を基幹病院とする6市でもって、この協議会を持っております。これを使いながら、国でありますとか県に対して、新型コロナウイルス感染症に関する医療機関へのさらなる財政支援をお願いしております。また、北信越の市長連盟では、北信越の68市でもって同じような要望を国のほうに上げております。

今ほどご指摘のように、地域医療というのは、市民の生活の安全・安心の土台になるものでありますので、こういうものについては、国・県のしっかりとした財政支援をお願いしたいというのが、市の立場であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

糸魚川市は、新潟県内ではいつも言うんですけど、病院に対する糸魚川総合病院等、支援は非常に力を入れている、そういう市だと思っておりますので、市だけでなく、やはりもっと大きいところ、国・県からの支援というものを引き続き強めて、財政支援してもらえるように取り組んでもらいたいと思います。

2つ目の保育・教育行政について伺いたいんですが、市職員の採用試験で、一般職もそうですけども、その年によって人数が多かったり少なかったりしていると思うんですが、一時採用をずっと止めてた時期もあるんじゃないかと思うんですね。保育士の点で、募集人員、採用試験で、その年度の保育士の募集人員と受験者数、採用者数、ここ三、四年でもいいですけども、大体どういうふうになってますか。採用するといって募集出しても、そこに届かないということはないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

過去3年というのは、今ちょっと手持ちはございませんが、今年度におきましては、募集二、三名に対しまして、応募が4名ございました。採用につきましては、今のところ2名を採用しておりますという状況でございます。

なお、保育士が足りないという話でございましたので、第2回目の募集を今年度は、実は1月ですか行いましたけれども、時期が遅かったのもありまして、2回目の募集につきましては、応募はございませんでした。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

募集人員が1名とか、あるいはゼロとか、そういう年度はありませんでしたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

近年におきまして、募集人員ゼロということはございません。

ただ、かなり昔の段階であったかもしれませんが、最近においては、必ず募集はしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

保育士の職員構成の推移で、現在の園長クラスの方たちの先輩に当たる層、年齢が上の職員が少ないか、いない年次というのが、ずっと長く見ているとあったんでないかなというふうに思うんですね。その辺のところはどういうふうなことから。年齢構成でこの職員を見た場合に、毎年同じぐらいの人数で推移すれば、そんなに不具合はないと思うんですけども、不均等な構成になっていると、いろいろと矛盾も出てくるということがあると思うんです。例えば一定の期間、5年とか10年とか、非常に少ないと。例えば園が、数園全体にあって、そこ年度の、例えば50歳の職員とか五十何歳の職員が、一人とか二人とか、あるいはいないとか、そういうふうになった場合に、経験を十分積まないままに園長などの管理職になるというふうになってしまう場合もあるんでないかと思うんですよね。そうすると、全体を見る、そういう力を十分つけないうちに管理職になることによって、いろんな矛盾が出てくるということもあり得ると思うんです。そういう年齢構成で見た場合の不均等な構成という点ではいかがですか。そういうふうになっていますか。大体同じ人数で推移してるかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

私のほうから、人数構成のほうを説明させていただきます。

たしか昭和の終わりぐらいのあたりには、だんだん子供が、入園する子供が減ってきておる時代がございました。その頃は、やはり何と申しますか、園児数が少なかったものですから、保育士の採用も控えておった時期もあったかに思っております。

ただ、その後、未満児が入園する時代に入りまして、いわゆる園児数が増えてまいりましたので、それ以降は、保育士の採用は毎年行っておりまして、そのあたりからは平均採用しておるというふうに考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

それでは、私のほうから園長のいわゆる経験が少ないのではないかというようなところで、お答えいたしたいと思いますが、事実、おっしゃるとおり今の園長になっていただいている職員というのは、かなり若い園長もおるのは事実であります。

ただ、保育士のOBの方であつたりをアドバイザーとして任用しまして、園長研修をやっていたり、来年度、指導主事あるいは大学の教授にアドバイザーをお願いするというような、新たな取組も始めたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

最近、ここ何年か採用されて10年、15年以内で辞めるとか、あるいは定年退職の前に、定年の前に退職されるとか、そういう方は、そういう職員はおられませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

定年前にお辞めになる職員もいらっしゃることは事実であります。

ただ、冒頭、教育長の答弁のとおり、自己都合ということで当方としては、やむを得ないものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

男性職員の状況はどうでしょうか。多いときは数人いたと思うんですが、現在どういうふうになってるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

残念ながら男性保育士4名ほどおりましたが、お辞めになって、今現在は1名という状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

辞められたその原因というのは、あれですか、把握されましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

お辞めになる前に、うちのほうでも面談をさせていただいたり、お話しさせていただいておりますが、それぞれ自己都合ということで、この場での発言は、発言といいますかこの場で申し上げることはできません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

一般的には、男性が保育士になるというのは、よほど希望というか一生懸命にやってみたいという気持ちがないと、まだまだ少ないと思うんですね。そういうやる気のある男性職員が、4名いたのが3名辞めてしまったというのは、やはりどっかに問題があるんでないかなというふうに思うんですよ。ですから、先ほどいろいろ対策を取られてるということで、そういうのでカバーできるのか、原因がどこにあって、どういうふうなことを改善していかなければならないのかということをしっかり把握されて、対応していくということが大事だと思って、原因について聞いたんですが、その点は把握されて、対応されているということでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

退職される職員云々ではなくて、保育士というのは、当然子供が好きで、夢を持って職場に就く、職に就くわけです。今いる保育士も含めて、やっぱり子供を笑顔にするのが保育士なり、私らの役目だというふうに思っておりますので、そういった環境づくりというものが、私らのこども課の仕事だというふうに思っておりますので、今後も子供が笑顔になるような環境づくりに取り組んでいきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

いろんな方がいらっしゃると思うんですね。先生になろうと思っていたと、学校の先生になろうと思っていたと。けれども、子供が好きだから、方向を変えて保育士になろうというふうな方もおられるんでないかと思うんです。いろんなケースがあると思うんで、そういう方たちが、やっぱり自分の最初に考えたような、思うとおりにはいかないかもしれんけども、続けられるような、ぜ

ひ環境をつくっていただきたいというふうに思います。対策はいろいろやられてるようですので、今後そういうことのないようにしていただきたいと思います。

私の目から見ますと、ここしばらく正職員を減らして臨時職員で間に合わせるという安上がり保育というふうな、そうとも言える状態が続いてきたんじゃないかと。働ける有資格者も、次第に少なくなってきたのではないかとというふうに危惧しております。実際はそうでないということであれば、そう言ってください。専門教育を受けた方たちが保育をするということが大事であって、保育の質を維持することが大事ではないかと思いますが、この点はいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

正職員の数については、合併後、横ばいの状況です。保育士を募集しても、先ほど総務課長も申し上げましたが、募集しても応募が少ないような現状があって、全国的にも保育士不足というところなど、引っ張り合いというところもあって、数的には、正職員は横ばいの状況であります。

ただ、3歳未満児の入園が多くなってまいりまして、配置基準によりまして、多くの保育士を配置しなければいけないというところで、会計年度任用職員をクラス担任というところをお願いをしながら、保育の質を担保しているというような現状であります。

いろいろ現場では悩みがありまして、そういった悩みを解決すべく、先ほど私申し上げたアドバイザーなり指導主事なりを配置して、よりよい保育の環境をつくっていききたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保護員。

○8番（新保峰孝君）

何でもこういうことを言うかといいますと、官から民へ、正職員から非正規へ、新自由主義の安上がり行政と、安上がり人事は続いてきたという、そういう日本の全体の社会の動きというのが、そういうふうに動いてきたと。その矛盾が、今の日本の社会に現れてきていると。経済は後退していると。先進国、トップぐらい、トップだったり、トップ3だったり下、それが、がたんと下がってきてしまっていると。そういう今までのやり方、安かろう悪かろうとまでは言いませんけども、それでやってきたことが、結果としていろんな日本の力が、経済力もそうですし、いろんな点で落ちてるといって、そういう矛盾に陥ってるんでないかなというふうに私は認識してるんで、ちょっと聞かせてもらいました。

そういう中で、保育園も保育の質が維持されるような取組をしていただきたいと、強化してしていただきたいというふうに考えて言わせていただきました。特に次世代を担う子供たちは、非常に大事であります。いま一度、今後の取組について考えを聞かせていただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

子ども一貫教育の中で、幼・保の果たす役割というのは、非常に人生のうちにおいて一番大切な時期と捉えております。そのような中で、私は位置づけさせていただいておりますし、本当に議員ご指摘の今現象も起きてることも存じておるわけでございまして、私も何度も保育園、また幼稚園にも視察をさせていただいて、そういう現状はどういうことが起きているのかと非常に難しい部分がございますが、しかし、やはり人間形成の中において幼稚園、保育園の果たす役割をやっぱりしっかりと位置づけしていきたいという気持ちで取り組ませていただいております。現実には、本当に募集をかけてもなかなか増えてないのが実情であるわけでございまして、本当に残念でありませんが、そういう状況が生まれとることも事実であります。

しかし、それを何とかしてやはり改善していきたいという気持ちで、取り組ませていただいておりますし、これからもそのような形で取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

浦本保育園の閉園の関係ですが、様々な要因で少子化が進んで、先ほどお話がありましたように閉園になるということもあると思うんですね。

しかし、今回は、そのための条例改正案を提案するというふうなところまで行ったわけです。で、休園になったと。もっと話し合い、最後の詰めまで、これはこの保育園だけのことじゃないと思うんですが、きちんと十分やってれば、こういうことはなかったんでないかなと思うんですが、その辺のところをお聞かせ願えますか、経過を。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

12月市議会の総務文教常任委員会におきまして、来年度の浦本学園の入園の申込み者が結果的にゼロになったというご報告をいたしました。よって、保育園を3月末で閉園する方向で、1月中旬に浦本地区の新旧役員会におきまして、説明をして、理解を得たいというふうに説明させていただきました。1月中旬に開催予定だった役員会が、新型コロナウイルスの関係で、地区から延期をしてほしいというような申入れがあって、2月17日の開催となったところであります。その結果を受けて、地区としては、話し合いの結果、地区として閉園ではなく休園としてほしいという旨の集約がなされたため、令和3年度の分につきましては、休園とする方向で考えております。

なお、今後の保育園の在り方につきましては、地区と十分協議をしております。よって、条例の提案は、今回はしなかったということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

子供の発達に沿った保育・教育ということで、以前、政務調査で福祉先進国のフィンランドの福祉政策を学びましたけども、保育園と小学校の間に1年間の就学前教育、プレスクールがあるということでもあります。スムーズな移行が図られているということでありました。

フィンランドには、幼稚園はないということでもあります。6歳前後の子供たちは、1年間、午前中を就学前学校で過ごすということでありました。授業料は無料、教師が担当し、教科は国のコアカリキュラムに基づいて計画されますけども、特に教科はなく、多面的な子供たちの発達を促し、小学校に進む前の基礎をつくることを目的にしているということでもあります。1クラス最大13人、助手がいる場合20人ということでした。学校の保健師は、教育文化省でなく、福祉保健省の管轄にあるとのことでありました。保健師の要請レベルが高くて、権限が大きいと。医師と保健師の立場が対等になっているということでありました。それだけ次の世代を担う子供たちを大切にしているということだと思います。子供の発達に沿った保育・教育ということで紹介させていただきました。

一つの例で、外国留学の経験がある方が言っていたことではありますが、日本にいて、日本語をしっかり覚えてから英語を覚えたほうがいいのではないかと、そんな気がするということを今でも覚えております。何がよいのかというのは、専門家でないので判断は難しく、分かりませんが、人間の発達段階に応じた取組が必要ではないかと言われたのではないかと思います。特に子供の頃は、体の発達に応じた身体運動が大切ではないかと思いますが、どのようなお考えで保育園を指導されているのか、聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今、新保議員のほうから、るるご紹介がありましたけれども、国もこれからの時代を生き抜く力は必要だということで、保育園の保育指針あるいは幼稚園の教育要領が、平成30年度から改正になっております。学校と同様、主体的・対話的で、深い学びを実践していくということであると思っています。子供たちの興味を、それぞれの興味・好奇心がかなえられるような保育というのは、非常に大切だということで、現場でも子供たちに寄り添って、子供たちの気持ちを大切にす保育というものを現場ではしているものというふうに思っております。

当然、先ほど来、言われております保育士も不足な状況なんですけれども、何とか子供たちが、繰り返しになりますが、子供たちが笑顔で登園して、笑顔で帰って、家庭も含めて笑顔で過ごせるような環境づくりを進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）



所管の関係で現状でいくということでありましたけども、先ほどフィンランドの例を挙げましたけれども、教育委員会の所管事務が多過ぎるんでないかなというふうに感じるのと同時に、いずれ日本も、その子供の発達に沿った組織形態になっていくんでないかなというふうに考えることから言わせていただきました。長い目で見て、検討していただきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（中村 実君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

次に、高澤 公議員の一般質問の順番であります。高澤議員は、本日会議を欠席していることから、会議規則第5 1条第4項の規定及び先例申合せにより、通告の効力が失われますので、一般質問は行われません。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦勞さまでした。

〈午後3時48分 延会〉

地方自治法第1 2 3条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員